

3月19日雨上がりの晴天日和に、日本丸友の会京浜運河～羽田沖クルーズへ岡本さん、鶴野さん、廣原さん、大和が参加しました。

10時に日本丸棧橋前で年配者からご家族の方と一緒に記念写真を撮り、シャイニービュー号に乗船。

海上に出ると、風が冷たくライフジャケットがあつて助かる。ガイドさんの分かりやすい説明を聞き



絶好のクルーズ日和

ながら、京浜運河の右側を快適に航行。

ベイブリッジの下が一般道で車が走れる事、大黒ふ頭から歩いて展望台まで行ける事、東扇島は備蓄拠点だが、震災時に陸の孤島になった反省から、橋を建築中の



友の会の旗下に集合

事、地下トンネルで歩いて渡れる事、など色々と勉強になる。

奈良の大仏様がすっぽり入るLPGガスタンクを3つ搭載した巨大船、鶴見川を越え、川崎に入りJFEスチールの広大な敷地の



天気晴朗で波もなく

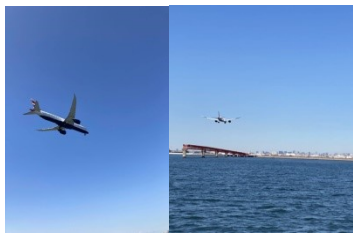
工場と鉄鋼の

山、湾岸トンネルの巨大な換気塔、沖合のシーバースとアクアラインの風の塔を見ながら、東京湾の羽田沖へ到着。

旅客機が次々と着陸態勢に入り、轟音を立てながら上空を飛ぶ姿は迫力満点。ガイドさんの飛行機材と出発・行先の解説に驚き、

管制

塔の音声を聞きながら話している事が分かったが、その音声を岡本さんが聞き分けることができ、ニッコリ笑いながら聞いている姿がとても頼もしい。



英国からC滑走路へ着陸



D滑走路から離陸

飛び立つ旅客機の姿は迫力満点。途中より埋め立滑走路になるが、何故か大型機ほど滑走距離が短くフワリと飛び立つ感じでした。船のガイドが4月よりSkymark

のCAに転職される話を聞き、乗客から拍手がわく。(将来のCAさんをCHK!) 羽田を去り、帰路航路の途中、橋げた工事で活躍したサルベージ船がタグボートに引かれて



野本さんの通われた海芝浦駅

ナ等フルーツ倉庫、石炭倉庫などを眺めながら日本丸棧橋へ。あつという間に2時間半のクルーズが終了。友の会の鳥海さんに挨拶をして、解散となる。

昼食と次の白木屋候補下見に「甘太郎」へ行き、廣原さんが早速、メニューのコスパとテーブル席調査を開始。一番の違いは、オーダーをスマホで行う点。料理を探し、注文送信まで時間を要し、口頭での注文が早い事が分かったが、スマホ操作にも慣れる必要があるのが課題。飲み物・料理・味とスピードは合格点。以上を確認してお開き。

祝、麻雀部復活!! 対局始まる

T1 丸山隆男

栄誉ある復活後の最初の対局日2023年3月17日、私・丸山隆男のグループの待ち合わせ時間は13時55分、家を出たのは12時30分頃で時間には余裕を持って家を出発。プリンターのインクが無くなっていたのでインクを買うために地下鉄の乗換駅の新横浜の駅ビルにある「ビックカメラ」へ寄り道をしてちょっとぶらぶら、ふと時計を見ると13時30分となっていたので、急いで地下鉄駅へ直行。雀荘は下調べをしておいたので、関内駅を降りて3番出口へ直行。出口を出て地図を見ながら歩いて、ここを曲がればすぐと思って曲がったところ少し早く曲がってしまったようで、時計を見ると13時55分。焦って近くを歩く若い女に地図を見せて尋ねたところ、この道を真っすぐ行って右に曲がればすぐですと教えていただき、すぐに待っていてくれたメンバーの一人、鈴木純さんに会って一安心。フジビルの3階へ行って「麻雀クラブ プリンス」へ到着した。雀卓は全部で7、8台あっただろうか?客は我々だけで一番奥の右端の卓へ案内された。席決めをして座り、



アクアラインの換気塔遠望



羽田沖合のD滑走路は、橋げた約1000本近くあり、海底90メートルに埋められているのを間近で眺めながら、轟音で

ママさんに機械の説明を受けた。私は雀荘でやるのは初めて、しかも麻雀をするのは 40 数年ぶり、なんと便利にできているのだろうと感心しきり。

東局、東は丸山隆男、南は丸山一義さん、西は鈴木純さん、北はニイさんと決まった。栄誉ある復活最初の対局者の 4 名であります。

ゲームを開始して最初に上がったのは一義さんだったか、最初は配牌もよかったようで一義さんがまずリード。麻雀部部長に敬意を表して神様も味方か！と思う勢い。その後は順位も入れ替わって順調に進み南入り。

ここで親の隆男が六・九萬待ちでリーチ。ニイさんが振り込んでロン！パイを開いたところ純さんから「チョンボ」の声。索子の 2・3・4 のつもりが、2・3・6。6 を切って 4 を持っていなければならなかったのに、4 を切ってしまっていた。親なので 1 万 2 千点の支払いとなり、大きな損失となってしまった。恥ずかしいやらかしであった。当然この時点で私・隆男是最下位。その後東局は無事終了。南局も順調に進みオーラス、最後は隆男がリーチ・イーペーコー・ドラドラの満貫で上がり終了。

やっとのことで半チャンが終了した。時計を見ると 16 時 25 分、ゲームの開始が 14 時 10 分だったので、半チャンが終了するのに 2 時間 15 分もかかってしまっていた。時間的に、もう半チャンは無理と判断し、そこで終局とした。

各人の点数は、丸山隆男が 43, 400 点、ニイさんが 24, 100 点、鈴木純さんが 20, 700 点、丸山一義部長が 19, 800 点で、隆男が独り勝ちであった。チョンボをしても最後は独り勝ちの隆男は相当の実力者か？（実力者はチョンボをしないのだけれど・・・）

終了後は近く中華料理店で（一義さんが予約を入れていただいた）軽くいっぱい飲み、楽しかった久々の麻雀の話に花を咲かせた。

18 時に店を出て駅に向かいながら話をした。一義さんが言うにはこの辺は神奈川県でも一番高級なクラブがあるところだとのことであった。

次回の対局も皆さん楽しみにしているとのことでした。

麻雀部会第2回

T2 二村 修

3 月 20 日（月）14:00 から、関内駅そばのプリンスにて、部会が開催されました。出席メンバーは、団長、事務局長、バリトンパートリーダーという重役の皆さんと、入団後 2 年目を迎えた

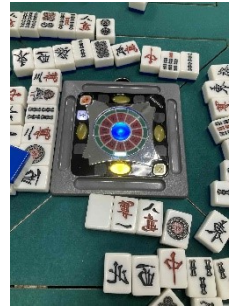
ばかりの私。皆さん、「いや～、麻雀なんて 50 年振りだよ」とか「点数の教え方なんかすっかり忘れちゃったよ」などとおっしゃっていたものの、ゲームが始まると一気に顔は引締まり、普

段の合唱練習では滅多に見ることのできない緊張感が漂います。なお、この雀荘の雀卓は、なかなかの優れもの。いわゆる全自動卓で、牌山を積むところは一般にある通りですが、何と、自分のところの 13 枚の配牌までなされてでできます。ドラ表示牌も 1 枚表を向いてでできますから、その次の山から、親がツモってゲームがスタートします。でも、各人の前の牌が微妙に短く、それもあってか勘違いして違う山から牌を積もってしまうミスが続出。団長は 3 度続けて私の山から誤ってツモろうとしたり、、、。人のミスを皆笑うのですが、結果 4 人とも同じような「スカートめくり」をしていました。

さて、この日の結果は、この表の通り。

	1 回戦	2 回戦	計
団長	-18	+21	+3
事務局長	-2	-9	-11
バリトン PL	+24	-7	+17
2 年目見習い	-4	-5	-9

正直なところ、実力は、バリトンパートリーダーの A さんが抜きんでていました。手作りは早く、華麗、そして半荘 2 回で 1 度も振り込まず。筒子で ②②③③④④⑤⑤⑥⑦⑧⑧ の三面待ちをテンパリ、⑧を見事に積みあがりました。タテチン・タンヤオ・ツモ・イーペーコーの倍満。なお、もしここで⑥か⑦を引いて、待ちを変えていたら、タテチン・タンヤオ・ピンフ・リャンペーコーの三倍満（大阪では大車輪と云って役満にしていました）という超大技まで成り得る凄い手です。次の局でも清一色をテンパってました。恐るべしです。団長は親で六本場まで粘り、2 回戦のトップを確定させました。「リーチタンヤオドラドラ」というようなベースソロの美声を幾度か耳にしました。



事務局長は、リーチをかけると、必ずツモりあがります。しかもカンチャンやシャンポン。さすがに何かもっておられます。日頃の行ないですかね？

そして筆者の私は、満貫を上がればビールを呑めるという自己ルールで臨みました。本当は呑み続けられるかも！？と微かな望みをもっていたのですが、結果、この日のビールは散発の 3 杯のみ。波に乗れそうで乗れない、次回への課題が残る対局となりました。

合唱団の私どもは、本来ならば、I 尾さんや K 島さんのような正統派カルテットで「いい曲」作りを目指さねばならないのでしょうけれど、今回のようなカルテットでチームワークよく「いい局」を回すのもよいですね。陽の高い時間から雀荘に入るなんて、学生時代以来。ちょっとした罪悪感も懐かしく、皆さんとの再会が楽しみです。